

高等学校福祉科採点基準

3枚のうち1

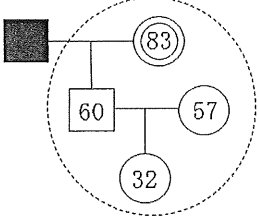
【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号		正 答 [例]		採 点 上 の 注 意	配 点	
1	(1)	(ア)	医師	主治医 もよい。	各3×2	
		(イ)	認定			
	(2)	①	2段階		各3×2	
		②	5段階			
	(3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問入浴介護</li> <li>・訪問看護</li> <li>・訪問リハビリテーション</li> <li>・居宅療養管理指導</li> <li>・通所介護</li> <li>・通所リハビリテーション</li> <li>・短期入所生活介護</li> <li>・短期入所療養介護</li> <li>・特定施設入居者生活介護</li> <li>・福祉用具貸与</li> <li>・特定福祉用具販売</li> </ul>		5つ書かれていればよい。 順序は問わない。	各3×5	4 3
	2	(①)	65		各4×4	
		(②)	40			
		(③)	医療保険			
		(④)	疾病			
	2	1	(A)	キ		各3×4
(B)			ウ			
(C)			エ			
(D)			ア			
2		<ul style="list-style-type: none"> <li>・使い捨てのガウン (エプロン)、マスクと手袋を着用する。</li> <li>・ウイルスが飛び散らないように吐物をペーパータオル等で静かに拭き取り、床を次亜塩素酸ナトリウムで消毒後、水拭きをする。</li> <li>・拭き取りに使用したペーパータオル等は、ビニール袋に密閉して廃棄する。</li> <li>・処理した後に、手指衛生をしっかりとる。</li> <li>・ウイルスが屋外に出ていくよう、空気の流れに注意しながら、十分に換気を行う。</li> </ul>		4つ書かれていればよい。 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	各5×4	3 2

高等学校福祉科採点基準

3枚のうち2

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 [例]	採 点 上 の 注 意	配 点	
3	1	エ, オ	全部合っているものだけを正答とする。	8
	2	(1) 	内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	10
	(2)	まず、利用者本人の不安な状況を受け入れること、そして、説得などよりも、困っている状態に共感をもって一緒に探してみることに、また、本人自身が見つかるように声掛けをすることなどの対応をするよう指導する。	問いを正しくとらえていれば、内容は異なってもよい。	10
4	1	① 耳下腺 ② 舌下腺 ③ 顎下腺		各4×3
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・味覚維持作用</li> <li>・食塊形成作用</li> <li>・消化作用</li> <li>・潤滑作用</li> <li>・保護作用</li> <li>・自浄作用</li> <li>・凝集作用</li> <li>・抗菌作用</li> <li>・免疫作用</li> <li>・抗炎症作用</li> </ul>	3つ書かれていればよい。 内容を正しくとらえていれば、表現は異なってもよい。	各5×3

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号	正 答 〔例〕		採 点 上 の 注 意	配 点	
	内 容	理 由			
5	利用者 片麻痺	指導計画の2次において、全介助の援助方法を行っており、全て行っている生徒もいる。そこで、本時では、部分介助の利用者を設定することで、自立を促す介護が重要だと気付かせ、サービス利用者の状況に応じた介護方法にするためには、どのように判断すべきか課題意識をもたせるため。	内容と理由がともに合っているものだけを正答とする。 問いを正しくとらえていれば、内容は異なっていてよい。	各 15 × 2	30
	寝衣 前開き パジャマ	指導計画の1次及び2次で、基礎的な知識と技術を習得し、和式寝衣の交換を体験している。このことから、既存の知識と体験を活用し、和式寝衣とは違う、布の特徴や形状が異なった場合の着脱方法について、考えさせることで、基礎的な知識と技術の定着を図り、さらにその技術を総合的に活用させるため。			
6	各種メディア教材を活用し、具体的な事例に基づき演習を行うこと。		順序は問わない。 内容を正しくとらえていれば、表現は異なっていてよい。	各 5 × 2	10
	介護活動における記録についても扱うこと。				
7	図1		問いを正しくとらえていれば、内容は異なっていてよい。	15	30
	考え	※ 図は、正答を縮小したものを示している。  Aさんの患側は安全に配慮し、Aさんのベッドの患側を壁側に付け、Aさんが起居動作をしやすいように、健側に十分なスペースを確保した。そして、Aさん自身が移動しやすくなるように、出入口への動線が短くなるようにベッドを配置した。採光や換気を妨げないために、掃出し窓と出入口を家具でふさがないように配置した。			